

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
報
第 1 7 号
2012年3月発行



当法人内高齢者施設での新年会の様子。
青嵐荘蒔のとう舎も「ソーラン節の披露」を始めました。躍動する姿をご覧ください。

もくじ

CONTENTS

補助金事業報告 . . . 2

委員会トピックス . . . 2

芳香会奨学金制度

大学院進学を目指す貴方へ
赤羽輝義・栄子奨学基金特集
. . . 3

作業療法士奨学生の紹介
. . . 3

障害児者施設トピックス

青嵐荘療護園 . . . 4

青嵐荘療育園 . . . 4

青嵐荘蒔のとう舎 . . . 4

青嵐荘つくし園 . . . 4

実施報告

地域づくり講演会 . . . 5

司法福祉講演会 . . . 5

実務研究発表会 . . . 5

国際交流協会フェスティバル
. . . 5

芳香会活動報告 . . . 6

芳香会スケジュール . . . 6

編集後記 . . . 6



2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

補助金事業報告

当法人では、各種の補助事業を受け、福祉サービスの提供を行っております。ここに平成二十三年度に補助を受け実施した事業をご報告すると共に、謹んで感謝の意を表します。

□スプリングクラ―整備事業完了のお知らせ

①青嵐荘路のとう舎

②みのりホーム芳春のいえ

③芳香会病院青嵐荘療育園

平成二十三年度茨城県障害福祉施設整備補助金のスプリングクラ―整備事業の交付を受け、青嵐荘路のとう舎、みのりホーム芳春のいえ、芳香会病院青嵐荘療育園の三つの施設にスプリングクラ―の整備を完了しました。

ご利用者の日々の生活の拠点とする施設において、火災の際にスプリングクラ―が作動し初期消火をする事で、避難が困難なご利用者にとっても、より安全に避難を完了することが出来ます。大切に使用させて頂きます。

□日本財団車いす対応車整備事業

青嵐荘つくし園

日本財団より助成金（二百八万円）をいただき、リフト付きハイエースの配備が完了しました。送迎希望者の増加に伴い、車両を最大限に活用し、より利用しやすい施設作り役立ててまいります。



完了のお知らせ

□社会福祉事業研究開発基金助成事業

芳香会社会福祉研究所

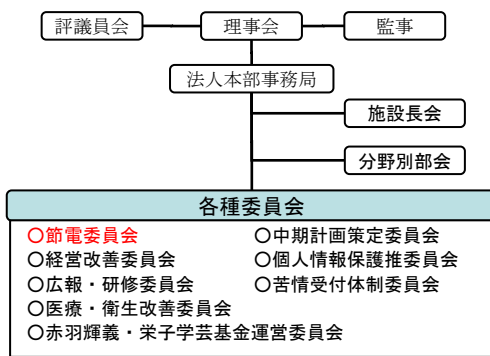
住友信託銀行による『社会福祉事業開発基金助成事業』をいただき、今年度、芳香会社会福祉研究所では「地域に根ざした更生保護のあり方に関する研究」を行ってまいりました。

地域の更生保護団体（猿島地区更生保護女性会）の協力を得て調査・分析を行い、報告書として取りまとめるほか、来年度の各種学会等で研究成果を発表していきたいと思っております。

芳香会委員会体制のご紹介

芳香会では、施設・事業所の運営はそれぞれの施設・事業所で、法人内の共通する事項に関しては各種委員会を設置し運営しております。現在、各施設・事業所の管理者や役付職員を中心に四名から九名で構成される八つの委員会を設置しており、自主的に会議や研修会を開催しております。

この委員会体制を導入したことにより、職員自らが法人の運営に自主的に参画し、考える機会となり、法人運営が活発化してきております。そこで本誌では、今号から各委員会の活動内容等について順次ご紹介させていただきます。



節電委員会トピックス

青嵐荘特別養護老人ホーム

坂場庶務課長

皆様、昨年夏季の節電の成果はいかがでしたか。特別養護老人ホームでは、一昨年の十二月より「電気の見える化・理解る化」により節電に取り組んでいます。これは現在の使用量やデマンド値が分かり、使い過ぎの場合には警告してくれる装置なのですが、これが役に立ちました。装置任せとはいきませんが、警告時どう動くかは人が考え、ここがポイントとなるものです。特に一年間の電気基本料金が決まってしまうデマンド値に焦点をあて冷房スイッチを館内同時に入れることを制限、冷房温度二十七℃以上の徹底する等一定のルールを決めました。職員の節電意識も向上しましたが、最後には職員の間にもあり大変感謝しております。

結果、当ホームでは昨年四、九月の削減率が二十五％を達成、百八万円の削減を達成しています。警報がなると無駄な場所を探しに巡回するのですが、目標デマンド値である百十kwhの九％相当(十kwh)を削減できたため、いかに無駄があったのか考えさせられました。

今年四月から電気料金が値上げとなります。東電より百六十八万円の値上げ、値上げ率十八・二％という考えられない通知が届きました。これまでの削減額以上が値上げで消えてしまう計算です。今年も新たな節電策を検討し全職員一丸となって取り組んでいきます。





大学院進学を目指す貴方へ 第一号職員のメッセージ



芳香会では、平成二十三年、芳香会に勤務する職員を対象とし、大学院への進学を目的として、赤羽輝義・榮子学芸基金を設立しました

近年の福祉を取り巻く社会情勢の変化に対応すべく、また、ご利用者の生活の向上を目指すためにも、職員の質や専門性、能力の向上を目的とし、「大学院進学」の機会をつくりました。



この制度は、これまで芳香会が行ってきた資格取得のための奨学金貸与制度とは別のもので、初代理事長である赤羽輝義の言葉であり、芳香会の社是である「福祉大家（その道に優れた人）」を原点とし、サービスのさらなる向上を目指すものです。

第一番目の制度利用職員は、茨城県地域生活定着支援センターの加藤係長です。芳香会では日本社会事業大学の指定法人推薦入試に係る指定法人として大学院福祉マネジメント研究科（専門職大学院）に登録を行い、専門職の能力向上のための学びの道しるべの一つとしました。加藤係長は第一号として受験し、見事合格、平成二十三年度中の一年間にわたって、仕事と学問をみごと両立させました。



今後とも芳香会は、現状にとどまらず、向上すべく歩んでいきます。

茨城県地域生活定着支援センター

加藤係長

今回、『赤羽輝義・榮子学芸基金』を利用して、日本社会事業大学専門職大学院にて学ぶ機会をいただきました。

芳香会に奉職し九年が経過し、これまでも資格取得等にて自己学習、自己研鑽を積み重ねてきたつもりでしたが、不十分であることは否めず、経験やコツに頼ってソーシャルワーカーを続けていることに限界を感じていました。そんな中、奨学金を利用した専門職大学院への進学のお話を頂き、一度立ち止まって自分の実践を振り返ること、理論や根拠に基づいた支援を行うための知識や技術を身に付けることを希望し進学を決意しました。



私は週四日仕事に従事し、週三日大学院へ通学し一年間仕事と学業を両立しました。体力勝負ではありませんでしたが、大学院での実践の振り返りと学び、職場での実践という円環的な学びができ、とても充実した日々を過ごすことができました。

大学院での学びは知識や技術の習得に留まらず、多種多様な方々とのネットワークの構築、多様な価値観や幅広い視野を得る機会となり、専門職としてだけでなく、人としての学びを深めることが出来たと思います。

今後は、専門職大学院での学びを法人に還元し、また現在従事している「地域生活定着支援事業」の発展の為、そして全ての福祉を必要としている方に支援を届けられるよう、専門職としての実践を積み重ねていきたいと考えています。

これまでの奨学金制度、 これから奨学金制度



芳香会ではこれまで通り、通常の奨学金制度も継続しております。現在、利用している職員の紹介を致します。

入社八年目の生活支援員であった櫻井さん、大学は理系でしたが、アルバイトで知的障害者の方と関わり、自分に合っている「福祉の道」を見つけたそうです。この仕事の喜びはご利用者が出来なかった事が出来るようになった時の笑顔、つまらないと言っていたご利用者が自分の働き掛けで笑顔になり、頼りにされる事のこと。この仕事への思いが伝わってきました。

【青嵐荘つくし園 櫻井作業療法士学生】



私は、介護の仕事をする中で、障害者の社会参加できる能力が伸ばせるような支援を行いたい、と考えていました。そんな時、施設長から奨学金制度や資格のアドバイスを頂き、作業療法士を目指して学校へ行く決心をすることができました。

入学当初は勉強からしばらく離れていた事もあり、不安が有りました。しかし、私のような社会人経験者も多く、同じ目標へ向かう仲間として、日々刺激し合いながら勉学の合格だけでなく、リハビリの技術・知識もしっかり身に付けることを目標に頑張っています。卒業後は、介護で得た経験も活かし、施設に入所されている障害者の作業活動の支援や、地域生活に向けたリハビリなどに取り組んでいきたいと思っています。

障害児者施設トピックス

グリーンカーテンコンテスト 優秀賞(青嵐荘療護園)

昨年夏に取り組んだ当園のエコカーテンが、古河市みどりのカーテンコンテスト団体部において「優秀賞」を頂きました。猛暑の中、ご利用者と共に行ってきた水撒きや手入れの功績ではないかと思えます。

平成二十四年二月五日(日)に古河市福祉の森会館で開催された第二回ECCOフェスタ古河にて表彰式が行われ、当日は利用者互助会会長が参加し表彰を受けました。また、最優秀賞や他受賞作品からエコカーテンの作り方や出展時の写真の撮り方、PR方法など学ぶ点も多く、来年度の取り組みへの意欲向上につながりました。



今後とも今回学んだ事を活かしながら、最優秀賞を目指し、利用者と共にエコの取り組みに力を注いでまいります。

新体系への移行へ向けて (青嵐荘療育園)

現在、療育園では来年度からの新体系移行に向けて準備を整えております。当法人内の障害関係施設の中でも療育園が最後の移行施設となります。

新体系移行後もこれまで通り、児者一貫した支援体制が維持される事となりました。しかし、障害者自立支援法と児童福祉法の対象が十八歳を基準に分れる事になり、ご家族の皆様におかれましては手

続き等で困惑が予想されます。当施設におけるご利用者は重度障害により地域移行という点で様々な制限がありますが、身近な地域において児童発達支援が継続されることや少しでも昼夜分離型のサービスができるよう支援体制を構築していきたいと思えます。

日本で最初に「島田療育園」が開設されてから五十余年、今回の改正で「重症心身障害児施設」という名称がなくなりますが、児者一貫の施設の役割は今後も継続されますので、役割を肝に銘じ、施設を運営してまいります。

新年会でのダンス披露 (青嵐荘路のとう舎)

青嵐荘路のとう舎では昨年からダンス・よさこいソーラン節を週一・二回練習し始め、施設内の祭をはじめ、近隣の中学校でも披露する機会を頂き、ご利用者の方々も練習を積み重ねるごとにどんどん上達していき、結成当初は七名だった人数が「僕もやってみたい!」と声があり、現在は九名での活動になっております。

今年に入ってから、当法人内高齢者施設の新年会でも披露する時間を頂き、お年寄りの前で躍動する姿を見ていただきました。そしてアンコールの声を頂き、初めてのコールを頂き少し戸惑いの表情を見せるご利用者もいましたが



新体系移行説明会

「やれるよ」と心強い返事が。少し不安でしたが「行くぞ」の掛け声と共に再びステージへ向かうご利用者たちを見て不安は吹き飛びました。二度のステージを終え、ご利用者はとても満足そうな表情で新年会会場を後にしました。これからも練習を繰り返し、より精度の高い踊りを目指し頑張っていきます。

共生出来る地域を目指して (青嵐荘つくし園)

尾崎地区では、障害に対する正しい理解が得られ、障害のある人とともに活動し、ふれ合う機会を促進するため、障害者啓発事業の提案を行っており、平成二十四年一月十九日に三和東中学校二年生の「総合学習の時間」に交流事業



を実施することが出来ました。まずは当法人内雇用障害者とのコミュニケーションを図り障害のある人の理解が出来、また知的障害のある方によるよさこいソーラン節(路のとう舎)、身体障害のある方による和太鼓演奏(つくし園)を披露し障害を理解して頂けたのではないのでしょうか。授業後、参加生徒のアンケートより、「障害者の方が太鼓やダンス、そして働いているという現状を知らなかった」「どう声をかけたら良いか分からなかったが職員の対応をみて(普通)にすれば良いと分かった」と感想を頂き、目的を伝えることが出来たと思えます。今後ともこのような機会を継続し、障害のある人に対する地域の理解促進を図り、共生出来る地域を目指し啓発事業を行なっていききたいと思います。



「これからの地域社会のあり方を考える (講演会 開催報告)」

◆「社会福祉法人から発信する
地域づくり講演会」◆

去る平成二十三年十二月三日に芳香会社会福祉研究所主催で開催し、地域福祉を専門とされるルーテル学院大学の市川一宏学長に「みんなが築く地域力」というテーマでご講演をいただきました。

当日は百名を超える方々にご参加いただきましたが、その多くは個人もしくは団体で普段から地域での活動に取り組まれている方々で、今後、コラボレーションで地域づくり活動に取り組んでいくためのきっかけとなった講演会でした。

◆「司法福祉講演会 「罪を犯した人への支援」

暮れも押し迫った平成二十三年十二月二三日には、茨城県地域生活定着支援センターと社会福祉研究所との共催で開催しました。



講師の早稲田大学大学院日本文学教育研究科・宮崎里司教授は、矯正施設内で受刑者に対する日本語教育に従事された経験を有し、そういった経験を踏まえ「外国人受刑者の支援／日本語教育の立場から」というテーマでご講演をいただきました。

多文化共生の実態や社会的包摂の意義について、実例を交え学びました。



エビデンスに基づく実践を目指して (実務研究発表会)

十二月八日、古河市ネーブルパーク平成館にて第八回となる実務研究発表会を開催致しました。

第一部は、県内唯一の盲老人ホーム「ナザレ園」様にホームの改修等のご紹介を行って頂きました。また、昨年三月からの当法人の被災地支援活動の活動報告を行いました。

第二部は鹿児島国際大学大学院高山忠雄教授(当法人社会福祉研究所研究部長)、東北福祉大学三浦剛教授(当法人評議員)を審査員としてお招きし、法人内四事業所の実務研究発表を行いました。

当日は多くの外部事業所の方にもご参加いただき、活発な意見交換が出来ました。参加者からは「充実した内容であり、他分野の取組みも自施設での活動の参考になった」「仕事の足跡を作ることが出来ると感じた」等のご意見をいただき、実践レベルでの研究を継続することの意義と必要性を実感致しました。

今回の研究発表が多く
の事業所の実践への刺激
となり、サービスの質の
向上に繋がることを期待
したいと思います。



審査員の先生方と受賞者
(つくし園、ケア・アシスタンス)

結果	審査
最優秀賞	青嵐荘つくし園 【テーマ】 リハビリテーションマネジメント の導入と実践による効果
優秀賞	青嵐荘ケア・アシスタンス 【テーマ】 新世代の調理 〜真空低温調理法〜



笑顔は国境を越えて (国際交流協会フェスティバル)

「国際化」と聞いて何を思い浮かべますか。今までの日本は自国内での経済活動や発展が可能であったため、外国人との交流に消極的であり、結果として外国人とのコミュニケーションに對して不慣れであると感じます。私にとつて「国際化」とは多文化共生であり、他国の文化を含め理解するとともに、日本を誇りに思うことだと考えております。

昨年十二月十一日に開かれた古河市国際交流協会のイベントには千人近くの方が参加しました。そこで感じたことは、古河市にも二千三百人も外国人が暮らしており、そして地域にはこれらの人々の生活を支えているボランティアの方々がたくさんいるということでした。参加されていた方々は、自国の文化や習慣を持ちながら日本で暮らしているので、生活のしやすさや言語、食生活の悩みを持たれていないことでしょうか。しかし皆さんはとても明るく笑顔です。愛国心を持ちながら、日本を含めた他国への敬意を持っています。それを強く感じたのが、フェスティバルの最後を飾ったインドの伝統的なダンスでした。老若男女、多くの参加者が輪になり、手をつなぎ笑顔で踊っている時は温かい気持ちになりました。「笑顔に国境はない」という言葉を少し理解できた気がします。



芳香会にはEPA(経済連携協定)介護福祉士候補生二名が働いています。二人への支援を通して今後も「国際化」について考えたいと思っています。



食と水への取り組み



食に関する問題・事件が続発する中、食の安全性に関心が高まっています。ここでは当法人で行っている生活に欠かせない「食」と「水」に関する取り組みをご紹介します。

ほうとうかいキッチン 真空低温調理奮闘記



青嵐荘ケア・アシスタンス

北條栄養係長

「管理栄養士でブログを始めたい！」と理事長に打診したのは昨年八月。真空低温調理法を導入してちょうど半年の頃。ご利用者の食事に加え、被災地へ真空給食の支援も開始し“真空調理”についての情報交換が出来る施設”と“被災地支援の協力団体”の両方を探している時でした。九月に更新を開始し、現在は給食支援の内容、真空調理奮闘の様子、独自のソフト食レシピの紹介等を掲載しています。給食支援は金銭的な面もあり、協力団体はなかなか見つかりませんが、ブログを見た他法人の栄養士から応援の声をいただき、また真空調理については導入している施設への視察研修が実現。実践的なアドバイスを受取り、真空調理が以前より順調に機能するようになってきました。

ブログを始めたことで沢山の出会いと嬉しい反響がありました。今後も積極的な情報発信と、出会いを大切に、サービスの向上に繋がる仕事をしていきたいです。



他法人との栄養士交流

ソリユープの設置 安全・安心な水の提供



牛ヶ谷保育園・たま保育園では、昨年十一月に元栓型浄水器「ソリユープ」を設置しました。浄水器の活性炭フィルターには、健康に必要なミネラル成分を残し、残留塩素や放射性ヨウ素等の有害物質を除去する効果があります。設置後、園児がおいしそうに水を飲んで表情をみると、導入して良かったと思います。将来を担う子ども達への影響を考え、可能な限り安全な水を提供するのが私達の責任です。また給食食材や園庭の空気等に気を配り、安心な環境を心掛けて参りたいと思います。

芳香会スケジュール

- 三月二十四日 牛ヶ谷保育園・たま保育園 卒園式
- 三月二十四日 春季高校生 インターンシップ
- 三月二十九日 入社式&辞令交付式
- 五月 上旬 上大野小学校合同植栽活動
- 五月 一七日 芳香会移動献血事業
- 五月 中旬 理事・評議員会
- 五月 下旬 六月一日付辞令交付式

計報

高橋重宏・当法人元監事（日本社会事業大学学長）におかれましては、かねてから病氣療養中のところ、平成二十三年十二月八日にご逝去されました。

高橋先生には平成十八年六月から理事を三年間、監事を二年間務めていただきました。ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

編集後記

当法人の監事であった高橋教授が死去されました。先生には大学時代からお世話になりました。日本のソーシャルワーク理論や児童福祉分野の研究にはご尽力された方でした。先生のご遺志に込め、これからは社会福祉法人としての役割を担って行く所存です。

（光）

グレートジャーニーを敢行した関野吉春氏曰く「多くの先住民の文化で軽蔑されるのはケチな人」とのこと。消費税増税の論議や被災地の瓦礫処理の問題を見ていて、真理だと思ふ。子ども達や被災地の未来に思いを馳せ、我欲を捨てたい。

（酒）

病氣等の出来事に遭遇した時「前向きに生きる」難しさは、誰もが感じる事ではないでしょうか。明るい話題が少ない今こそ明るく生きる事が大事だと感じます。（川）



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。